資料 1. 質問促進リスト（QPL）論文集

凡例
○ 好ましい結果　× 好ましくない結果　－ 評価していない

著者・ジャーナル	介入方法	主要アウトカム	結果					
			主要アウトカム	有用性	満足度	質問数	精神的苦痛	診療時間
Arthur, JAMA Netw Open 2023	QPL	患者の有用性の認識	×	×	×	×	○	○
Eggly, Cancer Med 2023	QPL （臨床試験用）	コミュニケーションの質（積極的参加）と特定の治療臨床試験への参加	×	－	－	－	－	－
Tsai, Patient Educ Couns 2022	QPL （乳がん用）	意思決定の自己効力感	○	－	－	－	○	－
Bouleuc, J Pain Symptom Manage 2021	QPL＋医師のマニュアル化されたセリフの提示	診察中の質問数（総数、予後と終末期の話題）	○	○	○	○	○	○
Buizza, J Psychosoc Oncol 2021	QPL＋情報ちらし＋質問促進フォーム「腫瘍医と話し合いたい問題を教えてください」	診察中の質問数	×	－	×	×	○	○
Rogers, Eur Arch Otorhinolaryngol 2021	QPL ＋医師へトレーニングと患者サマリーのフィードフィードバック	12か月時点の総合的QOL	×	－	－	－	○	○
Henselmans, Oncologist 2020	QPL ＋医師SDM訓練	協働意思決定のスコア（医療提供者が意思決定プロセスに患者をどの程度関与させるか）	○	○	×	－	－	×
Zetzl, Support Care Cancer 2020	QPL	患者の相互作用的エンパワーメントスコア	○	○	－	－	－	－
Epstein, JAMA Oncol 2017	QPL ＋医師CST	患者中心のコミュニケーションの複合スコア	○	－	－	－	－	－
Tattersall, BMJ Open 2017	QPL （臨床試験用）	インフォームドコンセントの質に関するスコア（QuIC）	×	－	×	－	○	－
Walczak, Int J Nurs Stud 2017	QPL （難治がん用）＋看護師によるコミュニケーション支援プログラム	全般的および終末期医療に関する質問数と話し合いのきっかけ（Cue）	×	○	－	×	－	○
Shirai, Psychooncology 2012	QPL	資料の有用性に関する患者の評価（0～10の数値評価尺度）	○	○	×	×	－	○
Smets, Dis Esophagus 2012	QPL	診察中の質問（話題の数、範囲、診察の長さ）	○	－	×	○	－	○
van Weert, Crit Rev Oncol Hematol 2011	QPL＋看護師に対するコミュニケーショントレーニング	正確に想起された情報の割合	×	－	－	○	－	○
Clayton, J Clin Oncol 2007	QPL （EOL用）	診察中の質問数	○	－	○	○	○	×
Butow, J Clin Oncol 2004	QPL＋CCPP：Cancer Consultation Preparation Package＝意思決定支援冊子（意思決定・患者の権利と責任・クリニック紹介）の使用	治療決定に対する満足度	×	○	×	○	○	○
Bruera, J Pain Symptom Manage 2003	QPL （乳がん用）	患者による有用性の評価、コミュニケーションに対する満足度	○	○	×	×	－	○
Brown, Br J Cancer 2001	QPL＋医師は積極的にQPLに対応する群と通常対応群	診察中の質問数と診察直後の不安	×	－	×	×	○	○
Brown, Br J Cancer 1999	（介入1）QPL （介入2）QPL＋コーチング	診察時の質問数	○	－	×	○	○	－
Davison, Cancer Nurs 1997	QPL＋前立腺がんに関する情報冊子	意思決定役割の評価尺度（治療の意思決定において担う役割）	○	－	－	－	○	－
Butow, Ann Oncol 1994	QPL	患者の満足度、がんの受け入れ程度	×	－	×	×	－	○

資料 2. 開発した汎用性の高い core-QPL

がんの診断、治療のために当院を受診された患者さんやご家族へ

これからの診察でたずねたいことを考えてみましょう

診察でよく聞かれる質問をリストにしました。
考えをまとめたり、後で説明を確認する時にも役立ちます。

最初の診察ではまだわからないこともあります。
このリストで考えや質問を確認し、
これからの診察で少しずつ聞いてみましょう。

使い方説明動画

これからの診察でたずねたいことにチェック☑を入れてみましょう

- ☐ 病名はなんですか？　検査で何がわかりますか？
- ☐ どんな症状がでますか？　どう対処できますか？
- ☐ どんな治療ができますか？（方法、期間など）
- ☐ 治療の影響は？（短期・長期、からだ・気持ち）
- ☐ 生活や仕事、家族への影響は？
- ☐ 今後どんなことが予想されますか？

ほかにたずねたいことがあれば、具体的に書いてみましょう

今後聞きたいことも書いておくと役立ちます。
この用紙の裏に、よくある質問の例があります。参考にしてください。

今後、診察の時にお手元にお持ちください。
医療者にこれをみてもらってもよいでしょう。
診察後は、聞きたいことが聞けたか確認しましょう。

質問リストは厚生労働科学研究費（23EA1018）の支援を受けて作成しています

患者さんやご家族からよくある質問の例

聞きたいことを考える際に参考にしてください。
すべてを聞く必要はありません。
質問に丸を付けたり、自分らしい言葉に変えて、少しずつ活用しましょう。

病気と検査

◇病気の名前はなんですか？
◇私の病気の大きさや広がり(病期)について、またそれによりどんな影響があるか、知ることはできますか？ どの検査でそれがわかりますか？

症状と対処法

◇病気の影響でどんな症状(短期・長期)が出ますか？
◇病気や出てきた症状にはどんな治療法がありますか？

治療の理解と選択

◇手術、化学療法、放射線治療、そのほかの治療のよい面、よくない面はなんですか？
◇私の治療選択肢(手術、化学療法、放射線治療など)それぞれについて、予想される効果や副作用、後遺症と、それらへの対処法を教えてもらえますか？
◇治療にはどのくらいの期間がかかりますか？ 通院頻度はどのくらいですか？
◇いつまでに決めればよいですか？ 今日決めないといけないことはありますか？
◇私の病気や治療について、信頼できる情報は、どこで、どのように入手できますか？

治療の影響

◇食事、飲酒、運動、性生活、避妊など生活面で、治療中に気をつけることはありますか？
◇健康食品やサプリメント、鍼灸、マッサージなど利用している場合、続けることはできますか？
◇もし思うように治療の効果がでない場合に、どんな選択肢がありますか？
◇気持ちが落ち込むときの手助けや、相談できるところはありますか？ 紹介してもらえますか？

生活・仕事・家族のこと

◇病気や治療が、自分の仕事や生活、家族に与える影響はどんなことが考えられますか？（経済的な負担、治療の期間や場所、家事を手伝ってもらう必要性など）
◇家族や私を助けてくれる人たちが生活面や気持ちのことなど困ったときに、どんなサポートが受けられますか？ どこで相談できますか？（がん相談支援センター、がんサロンなど）

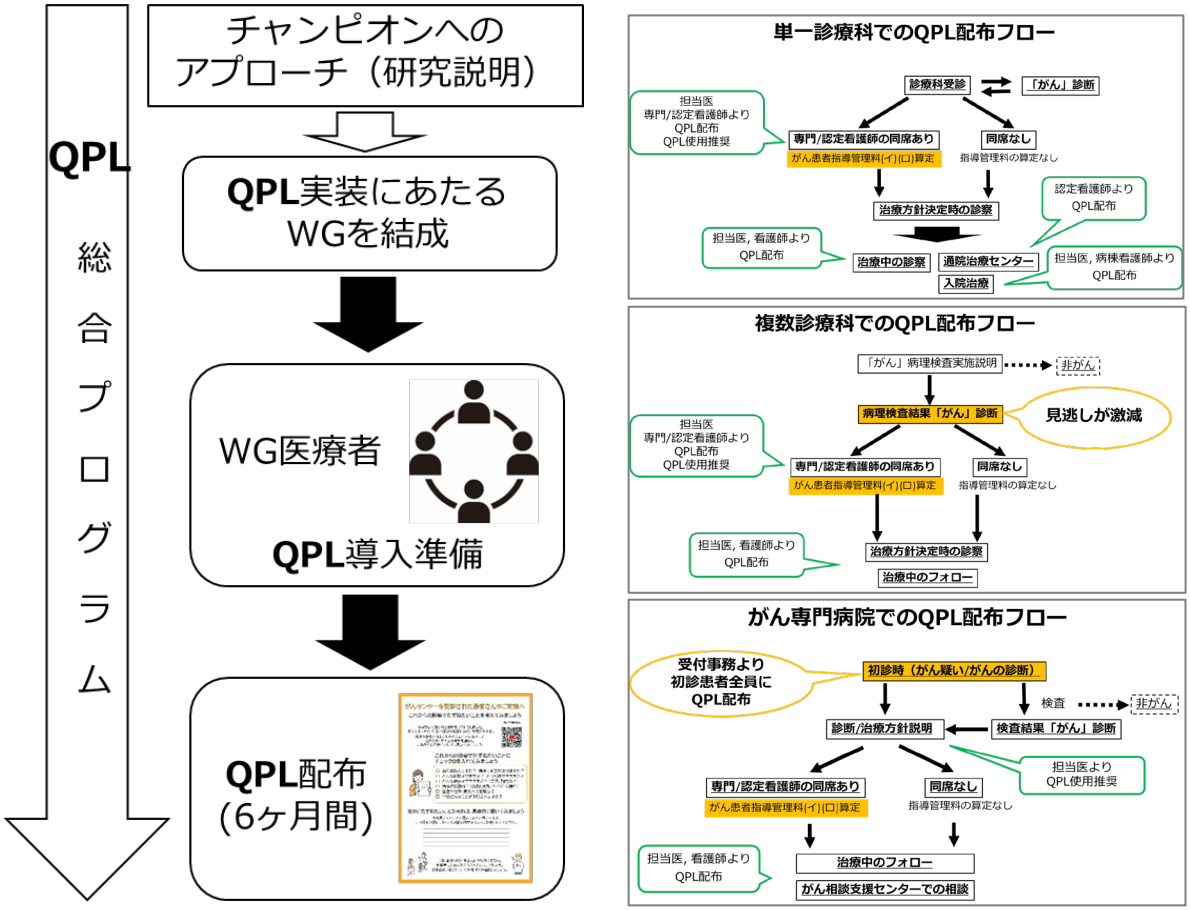
今後の経過や治療

◇治療がうまくいった場合でも、病気が再び悪化する可能性はありますか？
◇今後について順調な場合、またはもしも順調とは言えない場合の、病気、治療、生活の見通しを知ることはできますか？

質問リストは厚生労働科学研究費（23EA1018）の支援を受けて作成しています

資料 3. QPL 総合プログラムの概要

①チャンピオンへのアプローチ、②施設内のワーキンググループ形成、③コミュニケーションの課題整理、④QPL 導入範囲・QPL 適応・配布手順の決定、⑤導入準備として患者家族や医療者への周知・研修、⑥実際の QPL 配布と介入のフィードバック、⑦計画の継続と拡大

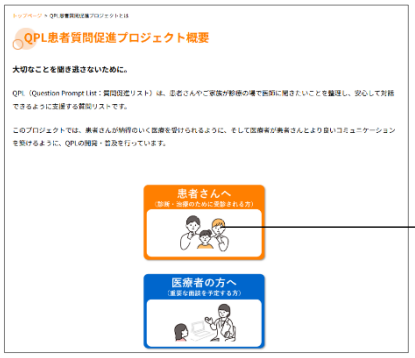


資料 4. QPL 総合プログラムの実装関連資材

■ D2SP（汎用性 core-QPL＋患者向け説明動画）

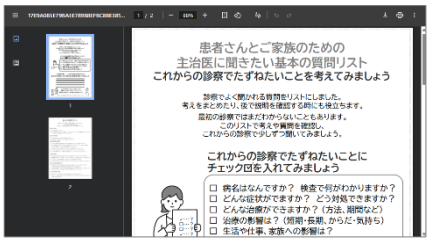
WEB サイト（ https://share-communication.jp/qpl_project/ ）

QPL 患者質問促進プロジェクトページ　トップ



患者向けページ

Core-QPL 印刷・ダウンロードページ



説明動画（NPO 法人 愛媛がんサポート おれんじの会　松本陽子氏によるナレーション、字幕あり）

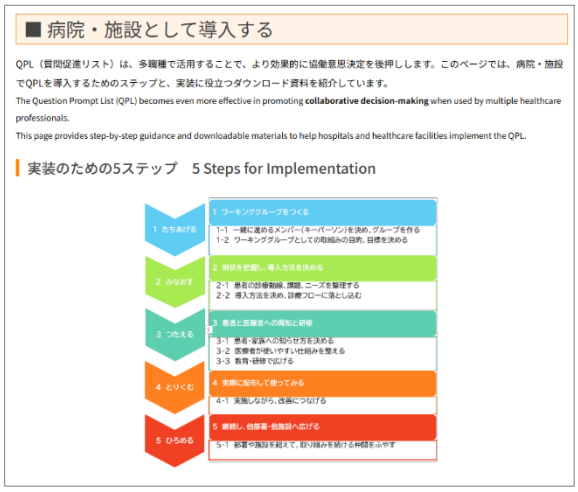
■ QPL 総合プログラム

導入フロー

QPL 患者質問促進プロジェクトページ　トップ

医療者向けページ

実装のための 5 ステップとして紹介



医療者教育動画

医師/看護師による声掛け例の紹介

■ 実装プロセスの振り返りインタビュー動画

インタビュー動画構成

動画１：　https://youtu.be/BKUk5fRFjJ8

がん診療連携拠点病院、施設全体での取り組み事例

動画タイトル：QPL 実装例　函館五稜郭病院　西本武史 先生

導入前の課題	「質問しづらい」と感じる患者の声が多くあった
導入のきっかけ	「QPL を使ってみないか」という提案を頂いた
導入時の工夫	QPL の説明動画で理解を得た 導入後も声をかけて不安を解消している
医療者のメリット	面談に同席しやすくなりチームのモチベーションも向上した
患者・家族の変化	「使って良かった」という声が寄せられた
他施設へのメッセージ	多職種での意思決定支援ツールとして大いに有用

動画 2： https://youtu.be/OIYRt22_6t8

消化器内科（外来・病棟）での取り組み事例

動画タイトル：QPL 実装例　水戸済生会総合病院　高久秀哉 先生

導入前の課題	患者の理解度にばらつきがあり情報が十分に伝わっていなかった
導入のきっかけ	QPL を使った医療者の働きかけで理解を補えると考えた
導入時の工夫	委員会やカンファで共有し院内の合意を得て導入を決定した 医療者の温度差は話し合いと役割分担で乗り越えた
医療者のメリット	配布への抵抗感は無く相談できる病院であると示せる
患者・家族の変化	これからの成果に期待している段階である
他施設へのメッセージ	医療者が質問を引き出す姿勢を示し多職種で協力することが大切

動画 3： https://youtu.be/G45TXD5M6gk

がん診療連携拠点病院、施設全体での取り組み事例

動画タイトル：QPL 実装例　近畿中央呼吸器センター　所明宏 先生

導入前の課題	支援が十分に行き届かず疑問や相談先が分かりにくかった
導入のきっかけ	緩和ケアの理解促進のため、QPL を含むパンフレットを作成し導入した
導入時の工夫	IC 同席の仕組みを整え状況に応じた資料提供を行った
医療者のメリット	患者の意向を把握でき治療方針の共有が進んだ
患者・家族の変化	不安を言語化しやすくなり会話が増えた
他施設へのメッセージ	治療のスタート段階で QPL を活用すると信頼関係を築ける

動画 4： https://youtu.be/djCrbylSUvE

がん診療連携拠点病院、消化器内科（外来）での取り組み事例

動画タイトル：QPL 実装例　岡山済生会総合病院　那須淳一郎 先生

導入前の課題	患者の要望が十分に伝わらず質問方法がわからない人も多かった
導入のきっかけ	看護師がすでに活用していたことを知り院内での活用拡大を決めた
導入時の工夫	少人数で試し　仕組みを整えてから展開する方針をとった 家族と共有を促す声かけや多職種連携で対応した
医療者のメリット	質問しやすい雰囲気が生まれ患者との対話のきっかけになっている
患者・家族の変化	「質問してよい」との意識が広がっているよう
他施設へのメッセージ	小規模から始めて運用方法を整え役割分担を明確にして広げるのが効果的

（動画 1～4 共通）Youtube 動画説明文：

がん医療の現場の臨床疑問「どう話し合えばいいの？」に答えるコミュニケーション研究

質問促進リスト（Question Prompt Lists：QPL）プロジェクト 患者さんとご家族のための主治医に聞きたい基本の質問リスト　実装施設 インタビューです。

資料 5.　QPL を活用する 5 ステップ

患者さんと医療者とのより良いコミュニケーションのために

質問リスト（QPL）を活用する基本の 5 ステップ

1　たちあげる

1　チームをつくる

1-1　一緒に進めるメンバー（キーパーソン）を決め、チームを作る
1-2　チームとしての取組みの目的、目標を決める

2　みなおす

2　現状を把握し、使い方を決める

2-1　患者の診療の流れ、コミュニケーションの課題を整理する
2-2　使い方を決め、診療の流れに落とし込む

3　つたえる

3　患者と医療者へ知らせ、使い方を学んでもらう

3-1　患者・家族への知らせ方を決める
3-2　医療者が使いやすい仕組みを整える
3-3　教育・研修で学んでもらう

4　とりくむ

4　実際に配布して使ってみる

4-1　実施しながら、改善につなげる

5　ひろめる

5　継続し、他部署・他施設へ広げる

5-1　部署や施設を超えて、取り組みを続ける仲間をふやす

第 1 版
厚生労働科学研究費補助金・がん対策推進総合研究事業「汎用性質問促進資材を含む、限局期がん患者に対する効果的かつ効率的な意思決定プログラムの開発・検証とその成果に基づく実装に向けた研究（23EA1018）」の支援を受けて作成

資料 6.　質問リスト実践ガイド（表紙）